

日本語のオノマトペ

イアン・ストラズマ

西村

JPN 562

12 月 16 日 2022 年

日本語のオノマトペ

はじめに：

日本語を勉強する外国人にとっては日本語のオノマトペは複雑で大切なことだが、日本人にはオノマトペはよく使う日常的なフレーズである。オノマトペは音を表す言葉である。日本語でオノマトペは日常的に使われて多くのフレーズがあることから、母語話者ではない人にとっては日本語のオノマトペを習得しにくい。この論文では、まず日本語のオノマトペの種類を説明し、次に会話、アニメ、マンガの中にオノマトペがどのように使われているか、について述べ、最後に日本語と英語のオノマトペの違いについて考察する。

文献研究：

日本語のオノマトペには、5つの種類がある。それは擬声語、擬音語、擬態語、擬容語、擬情語である。擬声語は人と動物の音を表す言葉だ。例えば、「ニャン」は猫の鳴き声、「コンコン」はキツネの鳴き声、「アハハ」は人の笑い声という意味である。擬音語は無生物と自然の音を表す言葉だ。「ゴロゴロ」という雷鳴のような音という意味である。擬声語と擬音語は、ほとんどの英語のオノマトペのような表現だが、擬態語と擬容語と擬情語に相当する英語の表現がない。その3つは実際に存在する音を表す言葉ではない。擬態語は有様を表す言葉だ。例えば、「でこぼこ」は表面に起伏があって平たいではないという意味である。擬容語は動作を表す言葉だ。例えば、「ぐっすり」は熟睡するという意味である。擬情語は感情を表す言葉だ。例えば、「しんみり」は寂しくて静かな感じという意味である。特に擬情語はマンガでよく使われる。オノマトペにひらがなとカタカナを使います。でも、言葉の感じ次第です。かたい感じの言葉

はよくカタカナで書いています。そして、柔らかい感じの言葉はよくひらがなで書いています。それに、ほとんどの擬声語と擬音語にカタカナを使います（デクスター、2015）。

日本語で写実的な歌や詩を書く際に、オノマトペが使われる必要がある（五十嵐、2019）。日本語のオノマトペの使い方は鮮明なので、歌と詩の中でよく見ることができる。五十嵐（2019）によると、「さくさく」、「しとしと」、「しんしん」、「ざくざく」のような表現は独特なものだ。これらの言葉は日本語を表現するときに使う必要がある。歌と詩の中でこれらの表現は形容詞と副詞のような言葉だ。でも、日本語の文法には、色々な品詞のようなオノマトペが使われる。具体的には、名詞と動詞と形容詞と副詞だ。このため、日本語でオノマトペは多角なのである。

また、アニメとマンガの中で出てくるオノマトペを使った描写はより多くの意味を表す（ロハン、2018）。この論文によると、日本語のオノマトペは語学的な要素と美学的な要素があるため、色々な効果がある。マンガのオノマトペは絵の中にあるので、それぞれのコマの意味を表現しやすい。このため、マンガ家は明確なオノマトペをよく描く。

インタビューの方法：

オノマトペのインタビューを知るために、カンザス大学の言語学を学びながら日本語を教えている信木亜由美先生と話した。信木先生は日本の出資で言語学を勉強している。日本語と英語が話せるので日本語と英語の違いについて聞くことができると考えた。ワトソン図書館で会って話した。インタビューで色々な日本語のオノマトペとその使い方について質問した。主な質問は以下の7つである。

1. 日本語でよくオノマトペを使うか。もし使うならば、どのような状況で使うか。
2. どのオノマトペのフレーズをよく使うか。
3. 一番好きなフレーズがあるか。
4. 若者だけによく使うオノマトペがあるか。また、お年寄りだけに使われるものがあるか。
5. 日本語のオノマトペの種類をどのくらい知っているか。
6. アニメとマンガでは、どちらの方はオノマトペがよく使われていると思うか。どのような具体的な例があるか。
7. 日本語のオノマトペと英語のオノマトペは違うか。もしちがうとしたら、どのような違いがあるか。

インタビューの結果：

信木先生は、質問一に対して、カジュアルな会話の中だけでオノマトペを使うと答えた。丁寧な会話の間、一般的にオノマトペを使わない。しかし、日常のカジュアルな会話の中ではよくオノマトペを使うそうだ。つまり、友達や家族と話す時、よくオノマトペを使うようだ。日本語のオノマトペには多くのフレーズがあるが、信木先生よく使うオノマトペのフレーズとして「バタバタ」と答えた。「バタバタ」は、忙しいという意味を表す。また一番好きなオノマトペのフレーズは「パタパタ」と教えてくれた。信木先生によると、理由は鳥の羽を表すオノマトペの音で、その音が好きだそうだ。

「若者だけがよく使うオノマトペがあるは」という質問に対して、信木先生は「ある」と答えた。信木先生は具体例を覚えていないとそうだが、インターネットで若

者が使うオノマトペの例を調べると「ぴえん」という言葉が出てきた。「ぴえん」は泣きたいという意味で、ソーシャルメディアの中だけでよく使われる。信木先生の専攻は言語学なので、日本語のオノマトペの5つ種類を全知っていた。先生はあまりアニメを見たりマンガを読んだりしないそうだが、アニメやマンガの中でオノマトペがよく使われていると答えた。具体例はマンガ「ジョジョの奇妙な冒険」での中使われている「ゴゴゴ」や「ドドド」のなどだ。脅迫的な感じを表すときに使われるフレーズだ。

「日本語のオノマトペと英語のオノマトペは違うか」というしつもんに対して、信木先生は「英語のオノマトペと日本語のオノマトペには違いが多い。」ほとんどの場合、日本語のオノマトペに相当するような英語がオノマトペはほとんど存在しない。信木先生の経験によると、英語を習得する時その言葉を英語に置き換えるのは難しい。それに、英語のオノマトペはあまり使われない。

考察：

日本語が自分の言いたいことが言えるようになるためには、オノマトペを理解し、使えるようになることは大切だ。まず、一般的にカジュアルな会話や歌や詩の中でオノマトペがよく使われるということが分かった。ほとんどの日本語のオノマトペは記述的で多面的だから、よく使われている。「オノマトペも他の言葉と同じく、他者との共通の認識において働き、味わいを出す。」五十嵐（2019）も言っているように、オノマトペをマンガやアニメの中で、オノマトペを使うことによって人と人とがより多くの情報を共有し、と感情を通じる合わせることができる。また、英語と日本語のオノマトペの使い方は多くの違いがあることが分かった。具体的に言うと英語には擬態語、

擬容語、擬情語に相当する言葉がない。そして、日本語を勉強する英語の母国語の人は多くのオノマトペを覚える必要があると言える。

このように、色々な利用なので、日本語でオノマトペは面白くて大事な言葉だ。オノマトペの5つの種類の中で、2つは存在する音を表すけど、後の3つは感情や動作を表す。それに、色々な品詞のようなオノマトペがよく使われる。このため、オノマトペはとても大事なものである。記述的な歌や詩を書くために、オノマトペを使う必要がある。マンガとアニメもオノマトペがよく使われる。マンガで色々な擬情語が使って絵で描く。つまり、日本語でオノマトペは多様で便利な言葉だ。

参考文献:

デクスタークリスチン (2015) 「Japanese Onomatopoeia: The Definitive Guide」 『Tofugu』

五十嵐順子 (2019) 「(うたをよむ) オノマトペの味わい」 『朝日新聞』

ロハンオリビア・笹本涼子・ジャクソンレベッカ (2018) 「Argumentation, Relevance Theory and persuasion: An analysis of onomatopoeia in Japanese publications using manga stylistics」 『International Review of Pragmatics』 Brill